ちょっと現状確認を

支持する政党、嫌いな政党だけを見ていても、どうやら何も変わらないようなので・・・

政権交代論チラシ２０２２年夏 第１号（全５号）　　製作者：伊吹健（政権交代.com）

参院選は一人しか当選しない選挙区でも自民、立憲、維新、国民が候補者を立てて、自民党超楽勝なんて事になりそうだけど・・・

そもそも、自民党ってそんなに素晴らしいの？

A.素晴らしいよ

これからも**永遠に素晴らしいの？**　いざという時の選択肢（**保険**）は用意しておかなくていいの？

A.他と比べればマシってだけ

そうとも言えるかも知れない。
でも、**マシっていうだけで選んでるような状態**、永遠に**続けていいの？**
日本には課題もいっぱいあるのに･･･

問題は、① 自民党が何でもありで、**合理的な政党じゃない**ところ。
② 地力の差がありすぎて、政治に**本当の競争がない**こと。
③ 今はまだいいとしても（？）、**選択肢を育ててない**こと。

野党第１党を育てておかないと、非常時に、冷静さを失う中で、弱い野党に政権を「初体験」させる政権交代になる。

あと、本当に選べなくていいの？
もしかして**選べてる気になってる？**
「自民党以外はダメ」
「自民党以外にもいい政党はあるけど、弱すぎ」
って言ってる人、それは現状（１つしか選べない）をただ受け入れてるだけで、選んでるとは言えないんじゃない？

自民党には投票できても、その中で安倍、菅、岸田、二階･･･、どの人、**どの派閥にするかは選べない**。総裁選もあるけど、それは結局、自民党内の**権力闘争**（選挙で負けそうな時だけ、普通の国民の方をちらっと見て、人気で選ぶ）。派閥も理念や政策でまとまっているわけではないし、そもそも自民党の中は、実はほとんどいつも「１派閥優位」。他国と渡り合うには、権力闘争で勝つ強さも必要だけど、国民が選べないのは、民主主義国としてはさすがに・・・

これもさすがにちょっとヘンだし･･･

① 世襲有利すぎ・・・**コネ**、**知名度**、**お金**が最初から十分ある。
親の背中を見て使命感に燃える、というほど親は立派なの？
周りも気をつかう中で育って、**「一般人」の気持ちが分かる？**

② 自民党有利すぎ、強すぎ・・・**戦前からの地盤**、**万年与党の力**。
※ 戦前のほとんどの政党が合流してできたのが、自民党）
もともと強い奴が鉄パイプも持ってて、素手の弱い奴と戦う。
それでも立ち上がる野党、つまり「鉄パイプを持ってる奴に素手で殴りかかる弱い奴」を想像してほしい。そうとう狂気。
こんなケンカ、こんなケンカの後、普通まともにやってける？

③ 自民、組む相手、選び放題すぎ・・・**公明**、**維新**、**国民**などなど
自民党が選び放題だと、当然自民党の力はさらに強くなる。
結局、自民党以外の全政党の影響力が、さらに弱くなる。

④ 野党弱すぎ、同じ事繰り返し過ぎ･･･これ、「**野党がダメだから**」で本当に全部、**説明つく？**

⑤ 公明党さん、連合さん、気持ちは分かるけど自己中すぎでは？
・・・１９９４年、自分達が与党で自民党が野党の時に、
小選挙区中心の選挙制度を導入したのが公明や国民民主。
小選挙区は、強すぎる自民党を除く多くがまとまらないと勝てない制度。公明などが２大政党制を目指して導入したはず。**なのに公明党は、一度自民党に勝てなかっただけであきらめて、自民党に寄って選挙協力**。信仰に基づく固い組織票を大量に、古い体質を残す自民党に供給。こんなに無責任な事ってある？　さらに今、これまで頑張ってきた国民民主党、連合も自民党にすり寄っている（連合は以前非自民連立の実現に動き、小選挙区導入を強く支えた）。
一方、小選挙区制に否定的だった勢力が、小選挙区で必死に戦っている･･･。　これ、さすがにダサすぎない？

ちょっと落ち着いて、分けて考えよう。

民主党系（立憲）に否定的なのはなぜ？

① ダメだから･･･ もしそう思うなら、なぜダメなのかを考えて、直すのも大切なこと。

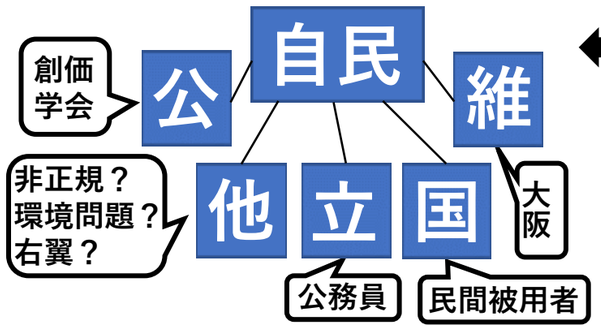
② 左すぎて･･･ 他の先進国は左右両方が強い。必要だから存在してる。だから欧米とは違う、日本の左派の問題点、最近浮上してる、欧米の左派と共通の問題点を整理して、改善していくのが王道。

もし、野党第１党を別の党に取りかえたいというのなら、大きな変更だから、それで選択肢が充実するのか、考えることも重要。

本当に世話が焼けるけど、最近パッとしない日本だし、国民が主権者なんだし、**政党システム全体を考えてデザインするしかない。**

それに関する一つの重要な提案が、「枝野路線」だった。

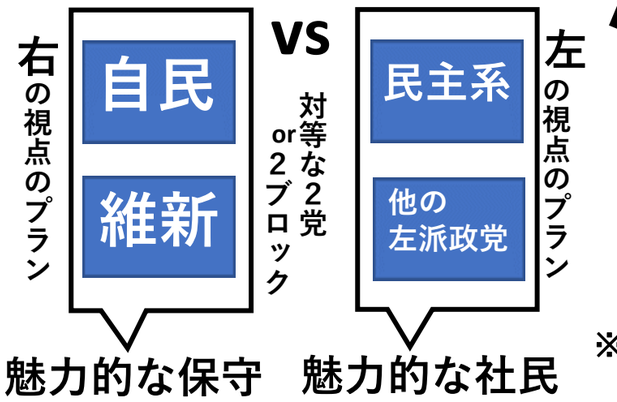
枝野路線とは、



⬅このような、

数多くの利益団体の支持を受ける自民党に、ついには政党までもが利益団体となって、ぶら下がる政党システム **ではなく、**

⬅このようにする事。

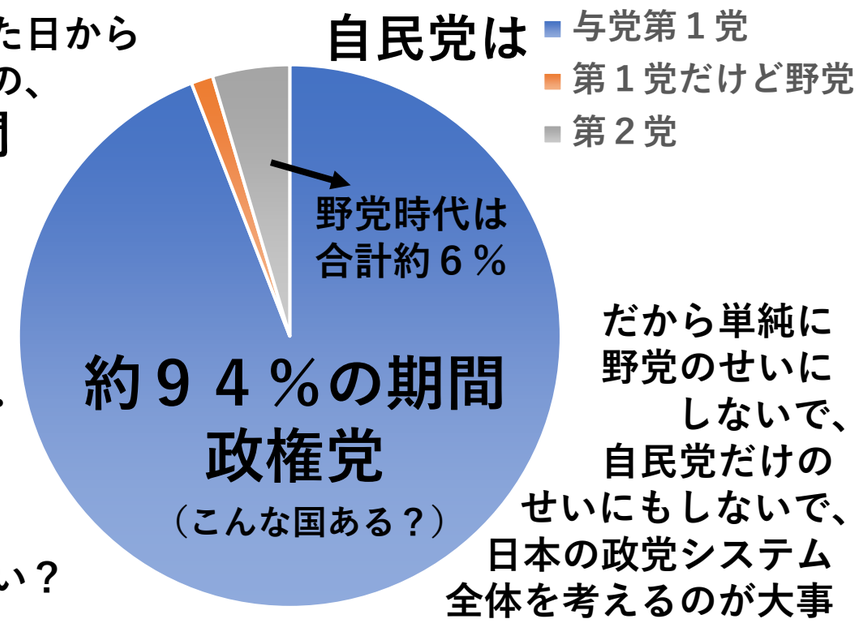


２つの異なる選択肢から、国民が選ぶ政治。その中で、伝統重視、軍拡優先、新自由主義とは異なる選択肢。これが評価されなかったのだから、野党共闘が損か得かよりも、この路線の是非と方法の是非を、党内外で検証すべき。

※ただし枝野路線は事実上、善し悪しは別として、立憲優位、立憲が他の左派野党を吸収する路線。

今の日本の不振、どの政党に責任がある？

自民党ができた日から今までの日本の、**約６６年間**



野党がダメだと言うのは簡単だけど･･･

どう見ても、一番の問題は自民党じゃない？

だから単純に野党のせいにしないで、自民党だけのせいにもしないで、日本の政党システム全体を考えるのが大事

今はやめておいても、いつでも政権交代できると考えるのも危険

２００９年の民主党への政権交代は、奇跡的に次の条件がそろっただけ。

①自民党が比例代表では第２党になってもおかしくないくらい支持を減らした。
･･･背景に、それまでの自民党の、反対派（党内・官僚）への配慮、権力闘争、バランス維持のためのあいまいさ、行動力の無さ。この当時にはまだ、消えた年金問題に関する批判が強くあった。

②自民党と創価学会の協力関係に否定的な宗教団体が、民主党側に移った。
･･･今ほど民主党系が弱くなかったので、そうすることができたとも言える。

③共産党が資金的な負担の大きい、全選挙区での候補者擁立を断念したこと。
強い第３極もなかった事で、反自民票を民主党が独占できる選挙区が多かった。

④右から自民党を削り得る幸福実現党が、ほとんどの選挙区に候補者を擁立した。

⑤民主党も、部分的には自社さ連立、非自民連立、５５年体制下の自民党議員として与党経験はあったが、与党時代に問題があった印象を持たれていなかった。

⑥１年ごとの総理辞任によって自民党は支持を失ったが、麻生新内閣、組織票で、民主党に勝つ可能性は高かった。しかし解散総選挙を先送りし、機会を逃した。

⑦自民党が麻生総理を交代させられず、改革派として人気の渡辺喜美が離党した。

⑧リーマンショックによる経済の悪化（普通は自民党が支持される局面だが）

⑨民主党が２００４年、２００７年の参院選で勝利し、第１党になっていた。
･･･政権交代に直結しない参院選で先に勝っておいて、
ねじれ国会を利用して自民党を追い詰めても、あまり批判されなかった。

⑩世襲等のコネが中心の自民党から立候補できない人材が民主党に流れていた。

⑪小泉改革で自民党の支持基盤が弱り、格差拡大が批判された。加えて小泉改革に期待して自民支持に転じた人が、改革姿勢が弱くなったことで離れていた。

⑫都市型（改革志向）だった民主党の代表に小沢が就き、小泉改革で不利益を被る人々を含め農村部で支持を広げた（自民離党者の地盤も活かされた）。

２０２１年総選挙の反省会もやっておこう

政権交代論チラシ２０２２年夏 第２号（全５号）　　製作者：伊吹健（政権交代.com）

総選挙の結果、こうなった！

① 野党の萎縮 その１・・・「今日は質問の機会をありがとうございます。」

丁寧なのはいいけど、国民の代わりに内閣に質問するのは当然の権利。
これだと、日本国民が「自公様、質問の機会を下さってありがとうございます。」という事になっていく。
民主主義、死ぬ（ちゃんと育てないと死んじゃう・・・）

② 野党の萎縮 その２・・・「追及すると反対ばかりって言われるし・・・」

左派野党の追及のしかたに問題がなかったわけではない。
でもこういうマインドにさせちゃうと、もう監視機能がズタズタに。
１党優位なのに野党の監視機能が弱ると、それはもう本当に怖い。
民主主義、死ぬ（ちゃんと育てないと死んじゃう・・・）

③ 野党第１党が曖昧に その１・・・立憲民主党がどっちつかずの姿勢に

国民が何を望んでいるのか、理解できない状態に。その背景には、
自民党が何でもありで、野党ばかり「はっきりしろ」と言われる状況。
自民党は癒着・利益誘導。それに反対の、矛盾する要望が全部野党に。

④ 野党第１党が曖昧に その２・・・野党第１党決定戦（２位争い）を
またやる羽目に（同じとこをグルグル）

⑤ 選挙におけるプラスのエネルギーは勝つこと。でも勝利した政党は、

日本維新の会　・・・ 展望は開けない（問題も続出）。
れいわ新選組　・・・ まだ希望が持てない（大政党になるのは難しい）。
（国民民主党）　・・・ 左派陣営を抜けたのは良かった（？)としても、
維新、小池系、自民党に適当にすり寄る。
（日本の政治の問題点を深刻化させている）

⑥ 公明、立憲、維新、国民、共産、れいわ、社民、N国、選択肢が他にもいっぱい！ 選び放題！ でも勝つのは必ず自民党。という状態に。

以上。　全体的には、**野党を弱らせるだけの選挙**になってしまった。自民党も相変わらず・・・。

結局、野党第１党が良くなる、強くなる事に多くの国民が期待を持てないと、停滞するだけ。例えば２０１２年、期待された維新とみんなの党が、政策が近いのに仲良くできず、総選挙でも、選挙後にも、余裕で野党第１党になれたのに仲良くできず。今も、維新、国民両党に信頼関係はなく、話にならない。※ 立憲と維新のどちらが良いかはまた別の話だから、枝野路線の総括も重要になる。

野党第１党である立憲民主党が伸びていれば、間違いなく政治における緊張感は高まっていた。

でもその先はあったのか？　選挙前と同じように、結局「５５年体制に戻っている」などと批判されるような、そんな状態に落ち着いていたような気がする・・・。
維新の会だって、壊滅まではしなかっただろうから、結局、小選挙区で共倒れをするという問題は残っていた。
（下手をすると、共産を取るか維新を取るかで右往左往）
自民党の失敗に便乗した勝利と言われ、盛り上がらず・・・

そもそも、立憲民主党が勝つことは絶対になかった？

・・・総理さえ交代させれば、総裁選で自民党ばかりがテレビに映るし、もともと地盤もあるしで支持率回復。
それでも立憲が勝ちそうな場合、自民党は小池新党を立憲民主党にぶつけて、共倒れさせていた。
・民進党が伸びそうになると、　小池ブーム。
・小池新党が伸びそうになると、立憲ブーム。
・立憲が伸びそうになると、　　維新ブーム・・・。

「自由に選んでるつもり」をやめて、追認ばかりの受け身をやめて、国民も変わるしかない。

分かったような事をいうな！
綺麗事を言うな！ とお怒りの方へ

① 生活が大変で実験してる余裕なんてない。

生活が楽じゃないならこそ、
関係者優先の自民党型保守、
弱肉強食がベースにはある、
維新型新自由主義を回避する
事を一番に考える事が重要。

自民党も維新の会も、再分配はする。
でも、保守だけが選択肢では困る。
社民的野党を育てないと、ごく短期的
にはいい感じに見えても、競争、節約
優先で、格差、貧困が悪化する危険。

れいわの方が自分達の
事を考えてくれている。

左派陣営全体が伸びて、その中でれいわが
伸びなければ変わらない。立憲を明確な
社民系にしつつ守り、選挙区で伸ばすべき。

② 左派なんてダメなんだよ！

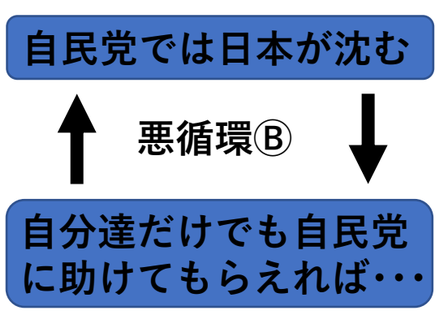
ロシアの侵略を見ても、
左派を支持できるのか？

日本型左派の問題点はあるが、
同じ問題が自民党内にもある。
そんな国会が、私達日本国民
の鏡像であり、歩みの投影。

これだけ自民党が強いのになぜ、憲法改正の発議がなされないのか、
観察し、考えると分かる。自民党内が、賛成も反対も何でもあり。
これでは有意義な議論がなされて、明確な政策が実行される事はない。

経済も国防も、自民党が全てを担うからあいまい、先送りのオンパレード。
異なる政党が議論するところに発見、深化があり、国民の進歩もある。
今の日本に必要なのは政策で選ぶ事ではなく、政策で選べるようにする事。
国民に今できるのは選択する事ではなく、まずは選択肢を確保する事。

左派に否定的な人も、
右派に否定的な人も、
全体を今デザインしないと、
あいまいなまま沈む政治が続く。
例えば、警戒心の強い右派と、
理想を大切にする左派による、
現実的な国防の議論は生まれない。



左派野党の課題

- 経験不足 → 厳しい与党経験をさらに積ませる。
- 国防等が理想論 → 与党経験を積ませて変化。
- 「貧困層と中間層、どっちの味方か？」という話

もう「富裕層かそれ以外か？」の時代へ。
消費税やら所得税やら年金やら・・・。
「中間層に有利か貧困層に有利か」
という対立を、超えなければ皆沈む。

貧困救済という応急措置と、中間層の
溶解の阻止と再生。この両立しかない。

格差、貧困是正重視の社民（左派）的アプローチと、
成長重視の新自由主義（右派）的アプローチ。
この２つの路線の競争と、お互いの補完が非常に重要。
※ 双方にも重なる部分はある。
（極端に左右に寄るのではなく、中道左派と中道右派）

それが
ないと、

１党優位
の政治が
続くと、

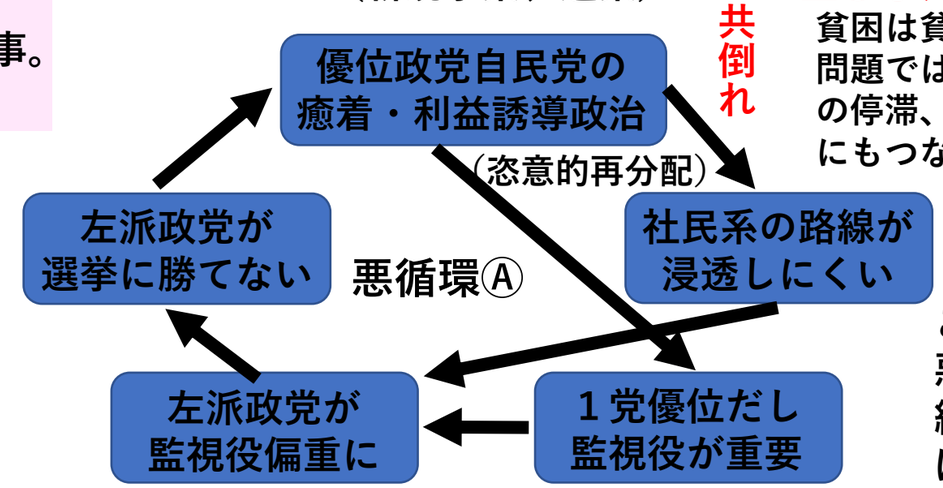
高度成長期は成長も貧困層の救済も容易だが、
今は成長も救済も難しく、既得権益の維持、
関係者優先で、変われないまま沈んでいく。

もっと規制緩和、
競争重視で活力を！
（新規事業、起業）

格差拡大反対。
経済的な弱者を
生むな、守れ！

共倒れ

貧困は貧困層だけの
問題ではなく、消費
の停滞、治安の悪化
にもつながりやすい。



このような
悪循環を今、
絶たなけれ
ばいけない。

政党システム全体のデザインを、少し考えてみよう

政権交代論チラシ２０２２年夏 第３号（全５号）
製作者：伊吹健（政権交代.com）

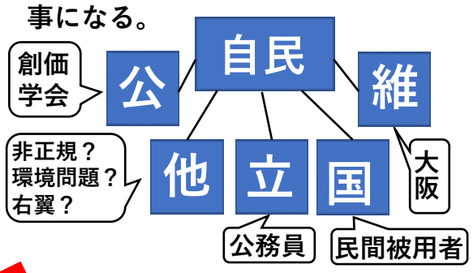
① 野党がバラバラで弱い現状

自民党 万年与党の力で、票をくれるところを優遇し、幅広い支持

ＶＳ

民主党 → 立憲
連合（組織票）　無党派（浮動票）
国民民主　維新の会

数多くの利益団体の支持を受ける自民党に、このままではついに、政党が利益団体となってぶら下がる事になる。



そして同時に、

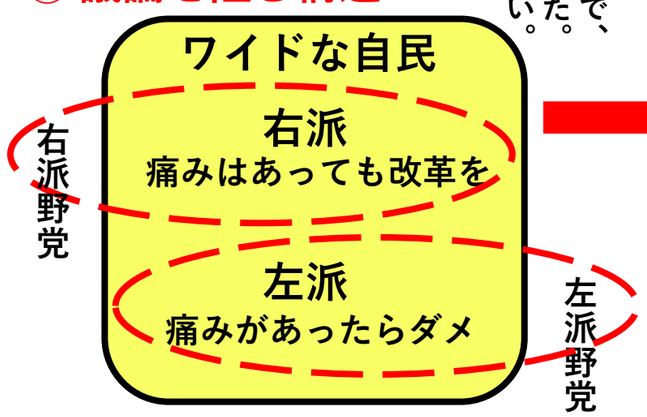
自民党 改革？やるよ。改革反対？骨抜きにするから大丈夫。

ＶＳ

民主党 → 立憲
痛みがあっても改革を進めてよ　格差、貧困絶対にダメ
維新など　れいわなど

自民党が何でもありなせいで、矛盾する期待を背負っていた。そうでないと自民に勝てない。

② 議論を阻む構造



➡「先送りか、あいだを取って･･･」

こうならないと、
議論にならない。
国民が選べない
（比例代表制なら選択肢は３つ以上でも選べるが）。
他の進んでる国もみんな、だいたいこの形。

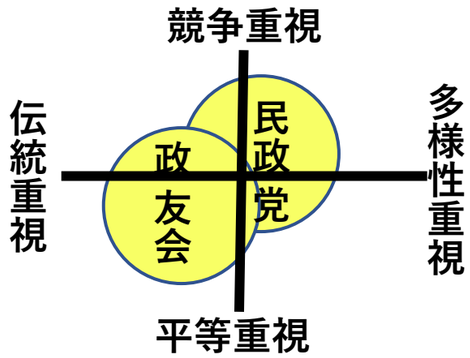
右の視点のプラン：自民 ↑影響 維新
VS 対等な２党 or ２ブロック
左の視点のプラン：立憲 ↑影響 れいわ

魅力的な保守　魅力的な社民

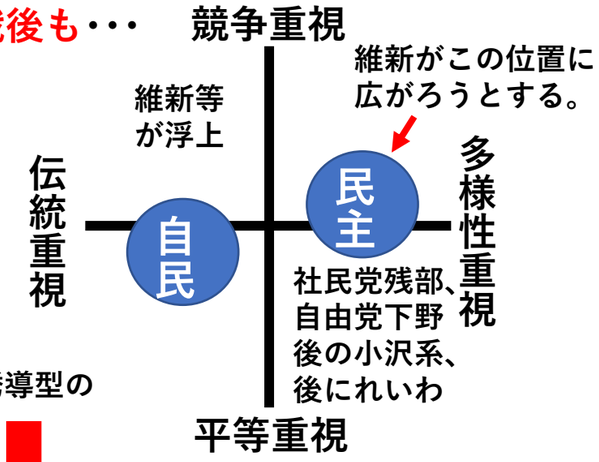
（立憲の中に維新の党がある事も忘れずに活かすべき。）

現代の議会政治の基本となる対立軸を得られそうになっても、すぐ戦前までの基本に戻ろうとしてしまう、日本の政治。

戦前･･･ しかし戦後も、古い自民党政治の反動で、改革を求めるあまり、民主党が消極財政的になり、戦前に近い状態に。



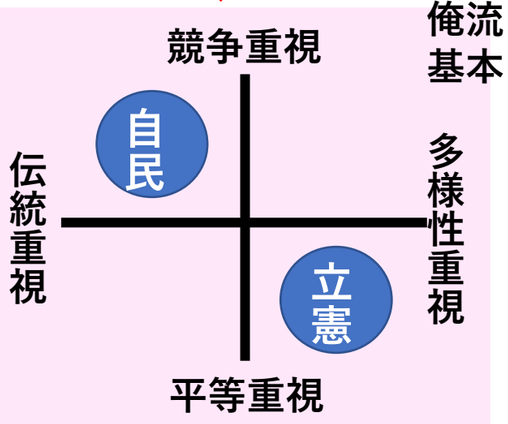
冷戦後も･･･



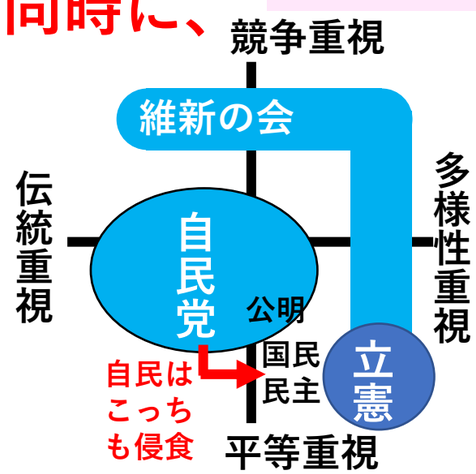
平等重視の社民が弱く、弾圧も受け、利益誘導型の政友会と節約優先の民政党の、２大政党制

古い時代の保守ｖｓ自由を脱して、戦後の欧米の基本を、一度はマスターするべき。俺流に変えるのは、基本を習得してから。

自民党が十字のど真ん中に位置している事と同様に、重心を図の左下に置いている事で現代化しないという面も、克服しないと前には進めない。



同時に、



現状のままだと、
かつての民主党のように、
今度は維新の会が、
何でもありの自民党を
囲むように勢力を広げ、
同じ事が繰り返されてしまう。

同じところをぐるぐる回る力すらなくなり、停止しつつある日本
～残るのは、独裁的な国家のような選挙結果が続く状態～

青が直近のターン、
赤が今後について。
・・・今は⑥だが、
②にはならな
そうな様子

⓪ 優位政党の誕生

① 優位政党に対抗するため、
第２党が何でも反対の政党に

② 弱く非現実的な第２党の内部で不満が
高まって、対決重視と対案重視に分裂
民進党の分裂

分裂するエネルギーも
説得力も、もはやない

そんな中、野党同士が
必要以上に対立し、
いがみ合っていれば
全野党が見捨てられる。

③ 優位政党が他党の
議員を少しずつ吸収する
民進党の不振・分裂で、
一部が自民党に移動

なし

④ ごくまれに
優位政党が分裂する

自民党も一枚岩ではないから、
野党が弱すぎて自民党が油断すれば、
内部対立が激しくなるかも知れない
（期待はしてはいけないと思うが）

維新の浮上

⑤ ②と④の分裂や、
第２党に対する不満
から、新党が浮上する

ミニ政党が少し浮上する可能性は
あるが、もう国民の失望も深刻で、
エネルギーは大きくなりにくい

すぐに政権を狙わないからこそ、
明確な姿勢をとる事ができる。

新たな立憲民主党の結成

⑥ 第２党が優位政党に対抗するために、
他の政党や会派と合流する

不振でもあるし、望まれてもいないから、
合流する力が湧かない（是非は別として）

考えが違っても何かしらの協力をするための、コミュニケーション能力が、連合も含めてなくなってきている。子どものように「正しい、間違っている」という話ばかりしている。

共産党は？

日本共産党は変化してきている。しかし同党に変化を強要するのも、決して健全とは言えない。他国では旧共産党が中道左派政党を形成したり（イタリア）、共産党とは異なる左派政党（左派ポピュリズムを含む）に脱皮している。その際、従来の社民系との一定の協力等がうまく作用している例もある。排除しても、共産党は少なくともしばらくは一定の票を取り、政権交代を阻む。それならばある程度取り込んで、変化を求めつつ、変化しやすい環境をつくる。論破を目的としない議論をする事も重要。

ロシア問題と新党

ロシアのウクライナ侵攻に関し、維新の会の創設者であると言える人物の発言、所属議員のロシアを擁護するような発言が物議を醸している。
ロシアを非難する決議案に反対し、全会一致での可決を失敗させた、れいわ新選組が批判されている。

異なる見方、考えがある事は重要。しかしそれがあまりに特殊である場合、政権担当能力には疑問符が付く。

新党の危うさというものは、警戒する必要がある。しかし維新の会、れいわ新選組は、日本では珍しく主張が明確な政党。
（第２党を目指す維新はあいまいになりつつあるが・・・）

維新は保守、れいわは社民的な面が比較的大きいから、それぞれ自民、立憲の陣営に入って、少し時間をかけて成長する必要もある。

それは、その間、主張を控えるという事ではない。第１、２党に影響を及ぼす事で、保守対社民という、違いのある選択肢を壊す事なく、改善させられる。あいまいという意味ではなく、幅を広げる事ができる。両陣営内での議論も、非常に重要である。

国民が目を覚ます時

政権交代論チラシ２０２２年夏 第４号（全５号）　　製作者：伊吹健（政権交代.com）

「目を覚ます」というのは、ただ支持できる政党、特に議席の無いミニ政党に投票する事ではなく、政党システム全体を考える、達観した目。全体を見て、戦略的に投票する判断力（与党を勝たせ過ぎないという点で、日本国民はこれを持っていた）。もし判断が難しくても、権力者にとってちょろい国民にまでは、ならないでおく事。

合成の誤謬を改められるのは、有権者だけ

良かれと思い、明確な考えを打ち出す野党。 ➡ しかし明確であれば必ず反対意見がある。何でもありの自民党に勝てない。 ➡ 無力感から野党がやる気をなくす、過激になる危険。

しかしどうすれば良いのか？

Ⓐ かつての新進党、民主党のように、非自民・非共産を何でも集めて、またあいまいな政党を、もう１つ作るのか？

Ⓑ 無理な合流はせず、自民党を前にして野党が共倒れをするのか？

今のレベルの選択だと、これが関の山・・・。それでも今できる事はある。

Ⓐ １強多弱を改めるために、野党第１党（立憲）の議席を増やす。

Ⓑ １強多弱が続くとしても、長期的な変化を狙って他の野党（維新）にシフトする。

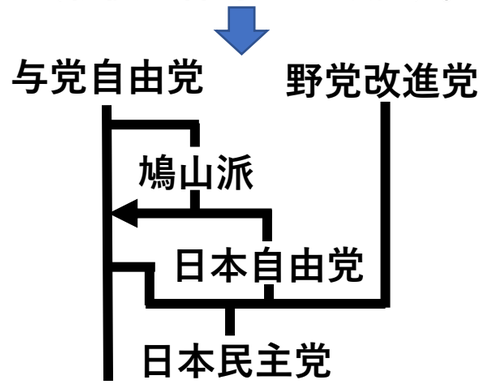
右派・保守系　左派・社民系

何でもありの、癒着と利益誘導、調整と先送りの１党優位制は、変える必要がある。**では、**

税をなるべく抑え、福祉もなるべく抑える、新自由主義的な政党を伸ばすべきか？
自民党のように裁量でばらまくのではなく、なるべく明確な基準で再分配をする。富裕層から多めに税を取り、中間層の溶解を防ぎ、貧困を解消する社会民主主義的な政党を伸ばすべきか？　（その合わせ技はあるのか？）

国民が自ら考える事、選択する事には、保守２大政党制は不向き

・第１、２党の違いが小さくなると、
議論よりもスキャンダル等で相手を蹴落とす事を考えるし（戦前の２大政党）、権力闘争、人間の好き嫌いで離合集散（戦後の保守２大政党）。



この、戦後の保守２大政党の離合集散は、約３年間、「吉田が約束通り政権を鳩山に返さない」という下らない理由で続けられた。その間、野党各党を巻き込んで、各種不信任案等を、出してくれ、欠席してくれという駆け引きばかりをやって、短期間で解散が繰り返された。これはほんの一例で、自民党ができてからも、野党が弱いために党内抗争が頻発した。維新の会は、安倍元総裁らとは関係が良いが、岸田総裁なら、自民党と対決する。つまりもう兆候が見えている。これらに政策的な背景がないわけではなくても、結局単なる権力闘争となる。

与党と明確な違いがないと、政策を実現させにくい野党は厳しい。保守vs保守なら政権交代が起こりやすいというわけではない。野党は、違いが小さい与党にすり寄る。合流する。仮に違いはあるとしても「改革に積極的」対「改革に消極的」では選べない（どんな改革かが問題なのに）。

大阪で成功している維新の会は、愛郷心にも助けられている。自民と維新の２大政党制になれば、戦前の２大政党制のように、相手を批判するために、「愛国心」を利用する危険も。
（個人より国家が重視され過ぎる危険）
※ 小泉自民党や維新の会のような、変化を起こす改革勢力は、
⬇ 権威主義的な右傾化によって、右からの批判をかわす。
ここで出て来るのが、１党優位で、政権交代のない国、国民が選び取らない国、選び取れない国で、国民の自由を縛り、政府批判の封殺につながる危険もある、緊急事態条項を憲法に設ける事。支配されるのが好きな日本人だからこそ、コロナ対応等の観点から、権力者に対して親切に、全て受け入れてしまう。

選択的夫婦別姓がなぜ重要か：夫婦別姓の是非ではなく、伝統や、他者に合わせる事を強要しない自由な社会にするかどうかの問題。何かを希望する人が、他者にもそれを強要するかどうかの問題。伝統で縛るか自由にするかも、たまには選挙の最大争点にすべき。

冷戦後の歩み－その１
～どう評価するのか？ 繰り返すのか？～

当時の狙い
- 限界の見えた、政権交代なき自民党１党優位をやめる。
- 世界水準の社民系に脱皮できない社会党を変える・代える。
- 小選挙区を導入し、保革１と２分の１から２大政党制へ。

自民党の分裂によって政権交代が実現。1993年
自民党分裂→総選挙→自民党過半数割れのまま→政権交代→非自民・非共産連立

↓ 1994年

社会党が連立政権離脱。

↓

社会党が総理を出す、自社さ連立内閣が成立。

↓

自民党離党者や公明党の多く、民社党が合流して新進党を結成。
新進党が衆院第２党に。

↓ 1996年

総理の地位が社会党から自民党に戻った。

↓

自社さ vs 新進党になるかと思われたが、社さ両党から民主党が誕生、野党化し、自民が復調。

↓

政権を取れなかった新進党内の自民党出身者等が、**自民党に復党、入党。**新進党の内部対立も深刻化した。

テーマは政治改革だが背景に権力闘争。
総選挙では自民党の議席は減らなかった。
社会党から新党には議席が移ったが、社会党も第２党のまま。･･･自民党初の下野となったが、**国民は現状追認のまま**

小沢らによる急な改革、強引な手法に議員達が反発、不慣れな国民も疲れる。
※ この当時、元自民党穏健改革派による新党さきがけも連立離脱。枝野、前原らが日本新党を離党してさきがけへ。

社会党が反対していた自衛隊、日米安保、原発を是認。

国民は現状を追認し、参院選で新進党を第２党にした。

小選挙区制が中心になっていた中、**新進党と民主党が共倒れ**をし、総選挙でどちらも伸びず、与党となっていた自民党が過半数に迫った。

※ 社さ両党は、その多くが離党して民主党を結成したため小党になり、後に連立からも離脱。

小党も含めれば１強多弱だが、１強（自民）２弱（新進、民主）と言えるような状況になった。

保守２大政党制への歩みに暗雲。

新進党内に民主党等との連係・合流派と、自民党との連携派（小沢ら）。

↓ 1997～98年

新進党が解党。小沢支持派が自由党、公明系が公明党に。民社党系、他の保守系は民主党に合流した。

↓ 1998～99年

参院選で自民党が敗北、ねじれ国会となったが、当時の**金融危機を政局に利用しない**こととした
民主党から、自由党と公明党が離れて自自連立、次に自自公連立が成立。

↓ 2000～03年

自民党が自由党を切り、自公連立に。
自由党は民主党に合流。
共産、社民の議席が非常に少なくなり、
自公 ｖｓ 民主党の２大政党制に近づいた。

↓ 2009～12年

当初は自民党が有利であったが、２００９年、ついに総選挙による政権交代が実現した。
だが政権運営が失敗し、結局は自民党優位の１強多弱化が進んだ。

民主党は総選挙でギリギリ第２党となり、みんなの党と維新の不仲に助けられ、第２党の地位を維持した。

この当時は自民党も、社さ・民主党重視派と新進党重視派に分化したがしょせんは権力闘争。社さ両党が連立を離脱し、自民党が参院選で大敗すると、主流派の前者が、後者が組もうとしていた自由党との連立を実現させた。

新進党が分裂した段階で、衆議院では民主党が第２党になり、**国民はそれを追認した。**

自民党が総理の地位を取り戻すと、議席の少ない社民残部と共産以外、つまり**主要政党の改革競争**に。
この点で自民vs新進も、自民vs民主もあまり変わらないが、自民vs民主には、民主党が社会党の流れを汲む事から、**欧米の基本（保守vs社民）**への接近の試みも、内包されていた。
ここから、俯瞰で見れば、対立軸を明確にする模索が続けられたのだと言える。

問題は、
- 野党の、与党経験の決定的不足。
- それを補う離合集散はあっても、また新人の当選は多くあっても、政治文化が変わらなかった事。
- 農村部への野党の浸透が困難。
- それが克服されたのは、民主党が小泉改革の継続と、格差是正という正反対の期待を背負ったため。･･･ 政権交代失敗の要因

この模索については、次号で詳しく見ます。

１強多弱化は、第１、２党の両方で新自由主義の色が薄くなったため、新自由主義的改革派のみんなの党、維新の会が誕生した事で進んだ。

冷戦後の歩み－その２
～全て捨ててしまうか？～

政権交代論チラシ２０２２年夏 第５号（全５号）　製作者：伊吹健（政権交代.com）

主要３党の改革競争･･･自民党が復調し、１強２弱化。
・自民党：癒着と利益誘導を変える姿勢を見せてみる。
・新進党：古い政治を新自由主義的に改革する路線。
※自民党離党者、公明、民社、日本新党が合流したが約３年で崩壊。
・民主党：社会党、さきがけの離党者が改革派の政党を自認して結成したと言える。
崩壊した新進党の多くを吸収し、
自民党と民主党の２大政党制へと近づいた。

本質

自民党	民主党
何でも	何でも

農村部で特に強い　都市部で割と強い

表面上

自民党	民主党
新自由	新自由

特に小泉内閣成立で

自民党	民主党
新自由	社民

小泉後

自民党	民主党
何でも	社民

民主党が政権を取って動揺

自民党	民主党
右傾化	何でも

民主党下野

自民党	民主党
右寄り	左傾化

※「何でも」･･･路線が不明瞭

「新自由」･･･新自由主義的面もある改革路線

「社民」･･･社会民主主義的な、生活重視、格差是正の路線

「右傾化」･･･伝統重視、国家重視に

「左傾化」･･･国防の問題で左寄りに

右寄りの自民党に対抗し、民主党が左傾化。
岸田内閣になっても大きな変化は見られないが、自民党の総裁交代、立憲民主党の自信喪失で、２大政党が以前よりは曖昧に。
そして維新の会が浮上し、また１強２弱に。
･･･背景に、自民党の右傾化と経済問題との関連性の薄さ・・・新自由主義の不足

第１、２党が試行錯誤し、欧米の基本も見えてくる中、国民は新党に目移りする

新自クブーム(’76)、土井社会党ブーム(’89)、日本新党ブーム(’92)、３新党ブーム(’93)、小泉自民ブーム(’05)、民主党ブーム(‘07～’09)、みんなの党ブーム(’09～’10)、維新ブーム(’12)、小池ブーム(’16～’17)、立憲民主党ブーム(’17)、そして再び維新ブーム？ それとも他の？

※ 社会党（土井委員長）、自民党（小泉総裁）は新党ではない。

国民が目移りする理由として考えられるのは、

Ⓐ 改革を求めているが、現実の歩みが遅い（前進したり後退したり）。
Ⓑ 古い自民党政治からの脱却を求めているが、自民党のライバルにも、あまり新しさを感じない。
Ⓒ 社民系の流れを汲む政党が基本的に第２党であり続ける事に、不満を持つ人々が一定数いる（主には日本型左派の国防等に関する問題）。

改革派の政党、新鮮な政党、クリーンな政党というのでは、農村部では支持を広げられない（広げられなかった）という限界（以前の民主党も）。

定数が是正され、一票の格差が大幅に縮小すれば、変化する可能性はある（人口が少ない、減少している地方の声を政治にどの程度、どう反映するかというのは、重なるところもあるが、別の問題）。

時代の変化とともに国民の意識が変わってきているが、全体像を考えるまでにはまだ至らない。

現時点で国民の変化は、政党の対等な競争を犠牲にし、１強２弱化を進めるのを助けている。弱さに霞んで、ゆがむ野党、経験不足の野党に国民が失望しているのか、　１党支配へ進んでいるかのような内閣、自民の高支持率。

維新の会は、過去の政党の総決算？
旧小沢系、小泉自民、みんなの党に近い理念。自民党出身者が多く、民主党出身者を多く選挙に擁立。民主党と同じく都市部で強く、派手な公約と心配な財源問題。旧小沢系、公明党、国民民主党と同じく自民党に寄る。旧小沢系、共産党のように上意下達の団結力。共産党のように野党陣営で孤立する傾向。社会主義政党のように国の在り方を設計して作り直す思想。小泉自民、Ｎ国党の様に敵を設定して攻撃。大阪には維新系の首長が多いが、左派野党もかつて全国の都市部の首長選を制し、革新自治体を広げた。旧小沢系は岩手に強固な地盤。 旧小沢系と同じく左派嫌い。同じく、合流新党を分裂させた。

だから今の日本は、政党システム全体をデザインする必要がある。そこまで行けるか。野党第１党を取りかえることに期待し続けるか。

維新も矛盾する期待を背負っているから、民主党のように曖昧に、ばらばらになる危険がある。その危機を振り切ると、今度は反対に、弱肉強食の面が強くなり過ぎる。

※旧小沢系は、基本的に自自公連立を離脱した頃までを指す。 自民出身者が中心。

欧米では２大政党の一方である社民系。日本の社民系には問題が多くあったが、冷戦後、試行錯誤を続けてきた。

総理を出して現実的に（社民残部は先祖返り）

保守系が多く合流し、左派色が決定的に薄まる

現実的になった面もあるが、ただ曖昧になったという面も。

郵政民営化に関し、立場を定められず

野党に戻ると、右傾化していた自民党に、左傾化して対抗、統一性が弱まる

日本社会党 → 社会民主党 → 民主党 →（民政・友愛吸収）→（自由党吸収）→（政権獲得）→（分裂）→ 民進党 → 立憲民主党 → 立憲民主党

離党、大物議員排除によるリセット、改革競争に順応

大物排除には当然デメリットもあり、それは実際に民主党系に表れている

総括なき、旧社会党系再統一

※友愛は1960年頃に社会党を離れている

左傾化過程にあった自由党を吸収した事で、社民系の色が強まる

強硬な小沢系を吸収したことで、民主党の内部が、反小沢派と親小沢派に二分された

与党になり、やがて右傾化

変節、不明瞭化だが、現実的になるという面も

左に芯を持つ政党に

その上で幅が広がる

ここで投げ出して別の政党の成長をまた待ち続けるのか？

ここが非常に重要

１９９３年の自民党分裂以来、１位しか当選しない小選挙区制が中心なのに、民主党が比較的好調だった約１０年間を除き、日本には優位政党の他、新自由主義的野党と社民的な野党があり、双方が一定の支持を得ている。これでは共倒れが続く。それに一つの答えを出そうとしたのが、民主党と維新の党の合流。まだ答えは出ていないが、ただ曖昧になるのではなく、党内紛争につながるものでもない、欧米の第三の道のようなものとも異なる融合、化学反応にも、期待できる面はある。

政治改革に始まる冷戦後の歩みを１つの道と捉えた時に、社会党などが再編を経て立憲民主党になり、自衛隊、日米安保を認め、護憲的でありながらも、現行憲法を神格化しなくなった事は、前進ではないのか。この、現実化し、重要な役割もある社民系をつぶす理由はあるのか？ この３０年間の歩みをリセットして、ゼロから第２党をつくって育てるのか？ ※政党を取りかえると、それまでの教訓は生きにくい。

どう展望を開くのか？

支持できる政党を待ち続けていても、支持する政党を応援しているだけでも、全体の構図が変わらない、ほとんど何も変わらないという事を国民が認識する。

野党にもその認識を持たせる。

（野党は本当は分かっているはず・・・）

全野党が一定の共通認識を持つ事が重要。

Ⓐ 同じところをぐるぐると回る事すら出来ない、弱体化、閉塞感。
Ⓑ 野党の共倒れ。
Ⓒ 野党の人材、資金不足。
Ⓓ さらに「安泰」になった自民党のおごりとたるみ。
Ⓔ 野党の質が低いと感じる。
Ⓕ ５５年体制に戻りそう。

姿勢が明確な政党を支持したい。だが明確であれば、反対する人もいる。票が割れるので、議席は伸びても、限界がある。（利益誘導政治の自民党は明確でなくても許される）

まとめて 解決へ

国防強化を軽視するのは無責任だとしても、それを論じる際、国民が強制的にも戦うのか、それはできないのか、真剣に考える事が重要。でないと形だけの議論になる。威勢のいい事を言う議員に相応の覚悟があるのか、見極めねば

① 国民が目移りせず、野党第１党をまずは伸ばす。優位政党が優位政党である間は、これに票を投じない。

② 冷戦後の歩みを認識し、野党の良い面を見る。提案を心掛けている野党を肯定しつつ意見を伝える。

③ 後退だと感じる局面にも焦らず、意識して繰り返しを回避。

野党第１党が追及偏重に、他の野党が優位政党にすり寄る傾向

このままでは与野党の質が上がらない・・・

冷戦後の日本の、日本国民の歩みを逆手に取る、国民の足元を見る。そんな、

自民党の永久機関を止めよう。

調子が悪くなれば、自民党は表紙を取りかえる（自民党総裁選が連日報道される）

安倍自民と異なる選択肢は立憲！ → 岸田自民と異なる選択肢は維新！

野党第１党の希望の党が議席を減らし、共倒れが生じつつも立憲民主党が躍進。

野党第１党の立憲民主党が議席を減らし、共倒れが生じつつも維新の会が躍進。

次は、自民党総裁をまた安倍っぽい人に

これなら野党の共倒れが永遠に続く

冷戦後の試行錯誤の道をあきらめず、点検しつつ進む。